

第 42 回 文献史料から見る「松江城と松江城下町」その 2

史料編纂室では松江城に関する文献史料調査を行っています。文献史料と一口に言っても古記録、新聞、刊本、絵図、絵葉書、写真など多岐にわたっています。

コラム第 30 回で古文書史料の記事を紹介しましたが、今回は出版された刊本の記事についてご紹介したいと思います。刊本は、歴史資料、子どもの本、小説、観光パンフレット、絵葉書、雑誌、研究書、民俗資料、報告書など広く収集しています。

ここで、収集した記事をいくつか紹介してみたいと思います。

5 月の連休が過ぎる頃、松江城の城山公園で小さな真っ白な花に覆われた木を目にするようになります。「なんじゃもんじゃ」（正式名は、「ヒトツバタゴ」）と呼ばれるこの花についての記事を探してみましょう。

『出雲路の珍話奇談-出雲庶民生活記-』の中に「珍木、なんじゃもんじゃ（城山公園）写真」（8 頁）と「城山公園の珍木ナンジャモンジャ、アカシアの木、白いサルスベリ」（167 から 170 頁）の記事があることがわかります。興味のある方は実際に本を開いてみてください。

松江城・城下町の伝説についても様々な記事が見つかります。

松江城の「このしろ伝説」（直政公が美女の霊を慰めるために宍道湖産のコノシロという魚を供えたという伝説）も『歴史の落穂拾い出雲・石見』『湖都松江松江文化情報誌』などの史料に見ることが出来ます。

また、大火の記事は様々な史料に見ることが出来ます。

昭和 16 年（1941）に出版された『松江市誌』には「綱隆の治世三、延宝の火殃（付図：延宝四年間松江大火図）」（112 から 115 頁）という記事が見えます。『島根評論 第 5 巻 3 号』には「松江大火と都市計画」（14 から 15 頁）、『なつかしい松江 1-宍道湖と千鳥城-改訂版』には「文化の茶町大火」、（35 頁）『更生の灘町』には「松江大火略史」（56 から 58 頁）などたくさんの記事が見つかります。

掲載した史料は明治 20 年（1887）から平成 26 年（2014）までのものがあります。それぞれの時代に書かれた様々な史料を読み比べてみるのも興味深いと思います。

今回は、調査した史料を「松江城関係文献一覧（刊本、埋蔵文化財報告書・調査報告書等）」というリストにまとめたものの中から公共図書館で閲覧できる史料を掲載していますので、ぜひご覧になっていただきたいと思います。

史料リストの掲載は、歴史に興味のある人だけでなくいろいろな人に「松江城と松江城下町」に広く興味を持ってもらえるきっかけにしたいと思います。

今後も史料編纂室では松江城に関する史料の調査を行っていきます。

- ・ [史料収集にあたっての凡例\(PDF.\)](#)
- ・ [松江城関係文献一覧（刊本、埋蔵文化財報告書・調査報告書等）\(PDF.\)](#)

（5月1日史料編纂室：石塚晶子）